

アイ・ティ・イー 冷却プレート開発

電力使わず食品など定温搬送

旬な会社

①

アイ・ティ・イー（東京都千代田区）は、独自開発により温度を一定に保つ冷却プレートを活用し、電力を使わずに食品や医療品を定温で管理、搬送できる「アイスバッテリーシステム」を柱に事業を強化する。同システムは電源が不要なため、東日本大震災で電力供給がままならない被災地などでも保冷庫などに使えることをアピールしていくほか、同システムの活用で食品などの輸出可能性を広げ、日本の農業ビジネスの活性化を支援したい考えだ。

同システムは、冷蔵庫などで冷やした保冷プレートを用いて、保冷車内などを一定温度で

長時間にわたり冷やすことができる。温室効果ガスの二酸化炭素（CO₂）を排出せず環境負荷が低いのも利点だ。

大手企業などと手を組みながら、事業を拡大していく戦略を進めている。

例えば、日本航空（JAL）と連携して、同システムを活用して低コストで一定品質を維持しつつ医薬品を輸送するCO₂排出量低減型のエコ物流サービス「J-SOLUTIONS PHARMA」を開発。2010年8月に運用を開始した。航空貨物で行った試行調査では、120時間にわたり一定温度を保つことに成功している。

同システムは一定温度で長時間の保冷効果があることから、食品の輸出入など確かな温度管理が要求される用途にも活用できる。

■会社概要

- ▷設立＝2008年8月
- ▷資本金＝2500万円
- ▷従業員数＝10人
- ▷本社所在地＝東京都千代田区丸の内1の5の1、新丸の内ビルディング10F 日本創生ビレッジ
- ▷売上高＝非公表
- ▷主要事業＝エネルギー装置の販売、マーケティングおよびコンサルティング業務

同社のパンガジ・ガルグ最高経営責任者（CEO）は「日本の農産物を中国など他国に高い鮮度を保ちながら輸出できる」と自信を示す。

このため、JALのほかにも、大手医薬品卸会社や血液検査会社、ワクチン製造製薬会社、輸送サービス会社、和菓子



パンガジ・ガルグCEO（中央）を中心に行われたアイスバッテリーシステム戦略会議。女性（右）が手にしているのが保冷プレート＝東京都千代田区のアイ・ティ・イー本社

会社などと提携・協力関係を結び、事業領域を拡大する態勢を整えている。

ガルグCEOは、米インテルで半導体のグローバル戦略部長として活躍した経歴を持つ。「これからは、環境、医療、農業が重要になる。それらに役立つ事業をしたい」と決意。IT

（情報技術）から方向転換し、物流を中心とする新事業分野に飛び込んだ。08年に同社を創業、09年度に早くも黒字化を果たしている。国内で積み重ねたノウハウを武器に、来年中には中国やインドに進出し、同システムを広めていく計画だ。

（那須慎一）

アイ・ティ・イー 冷却プレート開発

世界視野にブランド拡大

旬な会社

⑩

アイ・ティ・イー（東京都千代田区）は、電力を使わずに一定温度で長時間にわたり保冷して生鮮物や医薬品の輸送が可能な「アイスバッテリーシステム」の技術優位性を強みに、業績を伸ばしている。

同社が独自に開発したプレートは、食品販売などに使われる保冷剤と同様に、冷凍庫で冷却することで繰り返し使用できる。同社の実験では、約2200回の再利用が可能だ。

プレート1枚の大きさはA4サイズ程度とA5サイズの2種類があり、ともに厚みが3.5㌘。用途に応じて必要枚数を冷凍庫で10～12時間かけて冷却して、運搬する商品と一緒に専用

ボックスに入れるだけで準備は完了だ。温度範囲はマイナス25度からプラス25度。3度単位で温度調節でき、現段階では一定温度で8時間から最長72時間の持続効果がある。

野菜などを運ぶ際には湿度管理が重要になるが、従来の冷凍車や冷蔵車などの湿度が45%程度とかなり乾燥した状態であるのに対し、アイスバッテリーシステムは湿度を70～80%で維持できる。

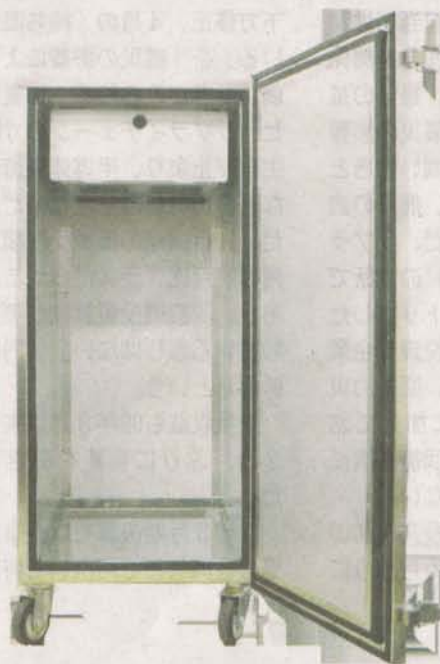
システムの導入を希望する物流企業に対しては、顧客が希望する保持温度帯と運搬貨物量を確認したうえで、最も効率的なアイスバッテリーと収容ボックスなど機器の組み合わせを提案する。これに、温度表示計といったオプションを指定すると、完全受注生産で対応する流れだ。また、顧客の費用負担軽減を図るため、システムはリース

バンガジ・ガルグ氏 米フ
ォックスビジネ
ススクール修
了。経営学修士
(MBA) 取
得。1988年神戸製鋼所入社。

安川電機、米シーラス・ロジック、米インテルなどを経て2008年8月にアイ・ティ・イーを設立し現職。44歳。インド・ニューデリー出身。

のみで提供している。

今後は、未使用時には折りたたみ可能で車輪があるため移動が楽な保冷カート「アイスバッテリーカート311」を投入する。従来のカートは4時間程度しか温度保持ができないのに対し、アイスバッテリーカートは密封度が高く外気温が35度に上昇しても庫内温度を一定温度で長時間保持できるほか、さまざま



車輪付きで移動しやすい「アイスバッテリーカート311」

温度設定ができる点も特徴だ。

同社のバンガジ・ガルグ最高経営責任者（CEO）はビジネスで世界各国を渡り歩いてきた。「日本の製品技術はトップ

クラス。日本で事業が軌道に乗れば、世界中にブランドが広がる」と確信し、日本を拠点に世界を視野に事業拡大を図る。

（那須慎一）